

**確認テスト**

所属 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_

**高齢者に多い疾患（脳血管疾患）**

1) 脳血管疾患に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選んでください。

- ①脳血管疾患は、大きく分けると脳出血と脳梗塞の2種類に分類できる。
- ②クモ膜下出血は、硬膜の下の部分から出血する。
- ③脳血管疾患の症状で、上肢が右麻痺の場合は下肢は左麻痺である。
- ④脳梗塞の症状は、手足のしびれ、足がもつれる、手足に力が入らない、ろれつが回らない、言葉が出てこないなどがある。

(        ) (        )

2) 脳血管疾患に関する次の記述のうち、誤っているものを2つ選んでください。

- ①顔がゆがんだり、急に箸が持てなくなったり、言葉がもつれたりしても、受診する必要はない。
- ②クモ膜下出血の場合は強烈な頭痛を訴えるので、そのような症状の時は、速やかに救急車を呼ぶ。
- ③急に意識がなくなり、片側の手足の力が入らなくなったら、脳血管疾患の発症を疑い、速やかに救急車を呼ぶ。
- ④手足の力がなくなったが、声をかけると返事はするので、水を飲ませた。
- ⑤障害の部位によっては、両上下肢がすべて脱力する麻痺を起こすこともある。

(        ) (        )

3) 脳梗塞の予防として介護職員が対応できるポイントのうち、正しいものを2つ選んでください。

- ①水分はたくさん飲むと浮腫になるので食事の時のコップ1杯だけにしている。
- ②医師から指示された薬の量が多くて辛そうなので、半分しか飲ませていない。
- ③毎日の水分は体重1kgあたり30ml以上を目指して、飲めるように工夫している。
- ④甘いお菓子が大好きなので、気にせずたくさん食べていただいている。
- ⑤医師から処方された薬は、指示通りきちんと内服していただいている。

(      ) (      )

4) 脳血管疾患に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選んでください。

- ①心房細動 (af) という不整脈がある場合には、脳梗塞になりやすい。
- ②生活習慣が脳梗塞の原因として、最も有力である。
- ③高齢者の入浴前後に血圧が変動しやすく、脳血管疾患を生じやすいので浴室と脱衣所の温度差を大きくすることが望ましい。
- ④脳梗塞による片麻痺の方の場合には、健側の口腔内が汚れやすい。

(      ) (      )

5) 脳血管疾患に関する次の記述のうち、誤っているものを2つ選んでください。

- ①脳血管疾患の検査は、超音波検査が有効である。
- ②脳血管疾患の後遺症である拘縮の中で、介護施設で圧倒的に多いタイプは、筋性拘縮と神経性拘縮である。
- ③拘縮ケアの基本は、重力を受ける面を狭くして、負担を減らす方法である。
- ④首の拘縮が強く、首が反り返っている人に対して、仰臥位の時に首と枕の間に隙間があると拘縮が悪化するので、隙間ができないように肩の奥まで枕を差し込んで隙間をつくらぬ方がよい。

(      ) (      )

6) 利用者Cさん(85歳、男性、要介護2)がデイサービスの昼食を食べている途中で、急に持っていた箸を落とし、右腕がだらんと力が入らなくなった。会話はできるが、うまくろれつが回っていない。しかし5分もしないうちに右腕の動きもよくなり、会話もスムーズになってきた。脳卒中の既往歴はないが、1週間前にも同じような症状があった。

デイサービスの介護職員として、どのような対応をすればよいか？

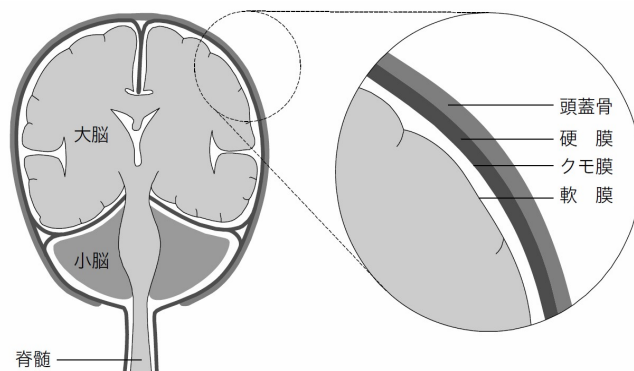
## 確認テスト 解答・解説

### 高齢者に多い疾患（脳血管疾患）

#### 1) 解答 ①, ④

##### 〈解説〉

- ② × クモ膜下出血は、クモ膜の下の部分から出血する。



- ③ × 脳血管疾患の症状としての麻痺は、上肢が右麻痺の場合は下肢も右麻痺である。四肢麻痺の場合は、両手足の動きが悪くなる場合もある。

#### 2) 解答 ①, ④

##### 〈解説〉

- ① × 顔がゆがんだり、急に箸が持てなくなったり、言葉がもつれたりしたら、脳梗塞の可能性が高いので、意識がしっかりしていても、速やかに受診する。早めに対応することで、後遺症を軽くすることにつながる。
- ④ × 意識があっても手足に麻痺のような状況がある場合は、脳血管疾患を疑い、水分摂取はさせない方がよい。手足の麻痺を伴う場合には、顔や口腔内、喉など嚥下に関連する部位が麻痺している可能性もあり、誤嚥の危険が高くなる。
- ⑤ ○ 麻痺は、片側の手足だけでなく、両方に生じることもある。どの部位に麻痺が生じるかは、脳のどの部分が障害を受けたかによる。

3) 解答 ②、⑤

(解説)

- ①× 腎臓や心臓に障害がない限り、水分をたくさん飲んでも浮腫にはならない。1日にコップ3杯だけの水分では、約600mLしかないので、脱水傾向になりやすく、脱水傾向になると血液の濃度が濃くなり、脳血管が詰まりやすくなるため、脳梗塞の発症のリスクが高まる。
- ②× 医師から指示された薬の量が飲むのが多くて辛い場合には、勝手に判断して薬の量を少なくするのではなく、処方をしている主治医に相談することが重要である。
- ③○ 人間に必要な最低限の水分量は、体重1kgあたり30mL以上と言われている。高齢になるとのどの渇きを感知する脳内センサーが鈍くなり、排尿の回数を減らしたくなるために、水分量が少ない方が多い。①で解説したように水分が少なくなると脳梗塞の発症リスクが高まるので、水分摂取が必要なのである。
- ④× 甘いお菓子は小麦粉や砂糖が多く含まれている。小麦粉も砂糖も糖質が多く、糖質を過剰に摂取することで、動脈硬化も悪化することがわかっている。糖質をあまりにたくさん食べることは、糖尿病だけでなく脳血管疾患のリスクにもなるので、食べ過ぎないように注意が必要である。
- ⑤○ 医師から処方された薬は、血圧を下げる降圧剤や、血管を広げる血管拡張剤などが想定される。血圧をコントロールすることは、脳血管疾患の予防としては最も重要である。高齢者に内服薬が大量に処方されることが昨今問題にはなっているが、脳血管疾患を再発する恐れのある高齢者にとっては、主治医の指示通りきちんと内服することが重要である。ただし、あまりにも種類が多い場合には、内服薬の種類を減らせないかを主治医に相談するのも必要である。

4) 解答 ①, ②

(解説)

- ③× 高齢者の入浴前後に血圧が変動しやすく、脳血管疾患を生じやすいので浴室と脱衣所の温度差を小さくすることが望ましい。ヒートショックは、温度差が大きいと起こりやすい。
- ④× 脳梗塞による片麻痺の方の場合には、患側の口腔内が汚れやすい。口腔内の患側側には食物残渣物が残りやすく、麻痺のために本人も残っていることに気がつかないため、汚染しやすいので、介護職員による介助が必要となる。

5) 解答 ①, ③

(解説)

- ①× 超音波検査では、脳血管疾患の診断はできない。通常はCTやMRIなどで検査をする。
- ③× 拘縮ケアの基本は、重力を受ける面を広くして、負担を減らす方法である。重力を受ける筋肉を抗重力筋というが、例えば仰臥位では背中側、右側臥位では右側が抗重力筋となる。拘縮の影響で、ベッド上で浮いている部分が多くなると、背中側の筋肉の緊張が強くなり、さらに拘縮が進む。

6) 解答

症状が一時的であっても 1 週間前に同じようなことがあったということは、一過性脳虚血発作の可能性が高いと考えられる。本来は 1 週間前の時点で病院受診を勧めておくべきであった。こういうタイプの方は、小さな脳梗塞を何度も繰り返し、段々と症状が悪化していくことが多いので、小さな脳梗塞のうちに早めに治療を開始しておくことが再発予防につながる。ただちに脳神経内科の受診をお勧めしよう。

【参考文献】

- 1) 岩下馨歌里：研修用DVD安心安全ケア教育 下巻，日総研出版，2012.
  - 2) 介護人財育成ぶらすVol. 5, No. 7（特別編集号），日総研出版，2008.
  - 3) 田中義行：オールカラー介護に役立つ！写真でわかる拘縮ケア，ナツメ社，2017.
- 

教材作成

有限会社ファイブアローズ 取締役 岩下由加里

※本教材は「介護研修115の問題用紙」（日総研出版）の教材を大幅に加筆修正したものである。